



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ヶ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 27 年 10 月 27 日

第 7 号

感動の修学旅行！ ～心と心がつなぐ一生の宝物～

高校生活最大のイベントである第2学年の修学旅行が、大きな感動のうちに無事終了しました。日程は、9月29日（火）から10月2日（金）の3泊4日。今年度は、これまで続いた沖縄に替えて、広島・瀬戸内・関西方面への修学旅行でした。心配した天気も、3日目の朝に激しい雨に見舞われたものの、新大阪に着くころには小雨程度に。その後雨も上がり、全ての行程を計画どおりに進めることができました。

今回の修学旅行の柱は大きく3つ。広島での平和学習、瀬戸内海に浮かぶ自然に恵まれた島での民泊体験、そして、事前に自分たちで計画した3～6人程度での班別自主行動です。また、今回の修学旅行は、民泊先の収容人数の関係で、3日目の大阪での宿泊までは、出発の新幹線を含め、周防大島班（6クラス）、江田島班（4クラス）の二つに分かれての行動です。

◆◆戦争に目を背けることなく平和を誓う

第1日目のメインは、広島での被爆を体験された方による講話です。広島に到着すると、バスで平和記念公園へ。バスのガイドさんが広島の街を案内してくれます。「75年間は草木も生えぬ」と言われた広島の街ですが、車窓からは街路樹の緑が美しく映え、街路樹の向こうには日本百名城の一つである広島城、続いて路面電車が見えます。広島の路面電車は、懸命の復旧作業で、被爆からわずか3日後に一部の路線で運転が再開され、焦土を走る路面電車はいつしか「ヒロシマの希望」に。そんな実話をもとにNHK広島放送局によって制作されたドラマが、今年の夏、戦後70年特別番組として放映されましたが、そんなことを思いながら路面電車を眺めると、思いも^{ひとしお}一入です。出番は少ないものの、今も2両の被爆電車が現役として走っているそうです。

平和記念公園では、元安川対岸の原爆ドームや原爆の子の像など公園内を見学の後、平和記念資料館へ。皆、食い入るように展示品を見学していました。広島や原爆については、事前に学習し、旅行委員が作った修学旅行のしおりにも詳しい資料が掲載されていますが、目の当たりにする黒焦げの弁当箱、人影を残した石壁、焼け焦げた学生服や衣類等々、物言わぬ数々の展示品から生徒一人ひとりが多くのことを感じ取ったはずです。

資料館見学後の被爆体験講話では、淡々と語られる極めて写実的なことばの一つひとつが、生徒に戦争のこと、平和のことなどを考えさせ、深く心に響いたことと思います。また、生徒からの「原爆を落としたアメリカについてどう思っていますか」という質問に対する「昔は憎んでいましたが、今は互いに話し合わなければならないと思っています」という講演者のことばも、次代を担う者として、生徒たちがしっかりと受け止めてくれたことと思います。それは、講話後の生徒代表による花束贈呈の際のお礼のことばからも伝わってきました。講話終了後に、代表のことばを述べた生徒に多くの生徒が称賛をおくり、共感のことばをかけていたのも印象的でした。



平成8（1996）年に世界遺産に登録された原爆ドーム。その孤高の姿に、永遠の平和を願わずにはいられません。

■「生徒代表あいさつ」より

僕たちは、今後、今日聞いたお話や今までに学んだ戦争について、後世に伝えていく必要があると思います。しかし、それは容易なことではありません。今、僕たち高校生にできることは、戦争があった事実から目を背けることなく、この講話をきっかけに、一人ひとりが戦争と向き合うことだと思います。今回、教科書ではわからない戦争の恐さ、悲惨さ、そして、実際に体験した方にしか語れない体験談を聞くことができたことは、僕たちにとってとても大きなことだと思います。そして、何よりも、一緒に笑い合える仲間がいる、温かいご飯が食べられる、この平和な日本を壊す戦争は二度としないという強い気落ちを一人ひとりが持つことが一番大切なことだと思います。

◆◆島の皆様のまごころ、力強い生き方に感動

広島での平和学習を終えて向かった周防大島と江田島は、どちらも本州とそれぞれ大橋で結ばれています。大橋にさしかかると景色が一気に開け、瀬戸内海の穏やかな海に浮かぶ島々の美しさに目を奪われます。島に到着すると、それぞれの島で入村式が行われ、島の代表の方の熱いメッセージで迎えられました。周防大島班の中には、さらに船で浮島、笠佐島に向かったグループもあります。民泊体験では、体験中は受入家庭の指示に従う、受入家庭との交流の時間に携帯電話・ゲーム機は持ち込まない、家族の一員としての役割を担う、マナーを守り受入家庭に迷惑をかけないなど10のルールをしっかりと心得て臨みました。

2日目（9/30）は、待ちに待った民泊先での体験です。釣りや漁、畑仕事やみかん狩りなどの農作業のほか、郷土料理作り、染色体験、飲食店の手伝いなど、ホストファミリー（受入家庭）の家業に合わせていろいろな体験をさせていただきます。また、それぞれのご家庭の工夫や配慮で一つの体験に留まらず、いくつもの体験をさせていただきます。生徒たちは充実



漁で獲った魚を網から外します。

した一日を過ごすことができました。見るもの聞くものすべてが新鮮で初めてのことばかり。生徒にとってはかけがえのない体験です。また、海の幸、山の幸の心こもった料理に、苦手だった魚や野菜をおいしくいただいたという生徒も大勢います。多くのご家庭では生徒は孫の世代。お子さんがいて、生徒がお兄さんやお姉さんにあたるご家庭もありましたが、どのご家庭でも温かく迎えられ、温かなまごころや都会とは違う農山漁村での日常や生活、文化に触れるとともに、そこでたくましく生きる方々の重みのあることばに触れ、世代や日常を超えた心の交流を通して生徒の世界が広がり、一回りも二回りも成長したように思います。また、温かみのある土地のことばも、生徒の心にいつまでも残ることと思います。



離村式での生徒代表あいさつ

楽しかった民泊体験もあっという間。3日目(10/1)の朝は生憎の土砂降りの雨でしたが、ホストファミリーの皆様が大勢見送りに来てくださいました。離村式の生徒代表のあいさつでは、感謝のことばとともに再会への



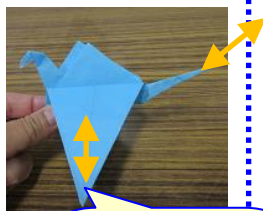
土砂降り雨の中を島の皆さんが見送ってくださいました。

思いなどが述べられ、こみ上げてくる思いにことばが詰まる場面もありました。離村式の会場からバスに乗り込むまで、島の皆さんと一人ひとりが握手で別れ、涙をぬぐう姿も多々見受けられました。

■羽ばたきの鶴

周防大島での離村式で、本校の女子生徒4名から「羽ばたきの鶴」をもらいました。首の下の方を持って尾を引いたり戻したりすると羽がパタパタと動く折り鶴です。広島市の平和記念公園でボランティアガイドを務める民泊先の方から教えていただき、平和への願いを込めて多くの人に渡すよう託されたそうです。学校に戻ってから、その生徒たちに羽ばたきの鶴の折り方を教えてもらいながら、民泊体験での話を聞きました。

生徒たちは、羽ばたきの鶴の折り方だけでなく、温かな心遣いや実体験に基づくいろいろなお話を伺い、生き方が変わるような感動を覚えたようです。



尾を動かすと羽がパタパタ動きます

◆◆全員そろっての大阪泊

周防大島、江田島から2時間ほどのバスで広島に。景色は一変し、新幹線で新大阪、さらにバスでユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)に向かいます。USJは、ハロウィンが近いこともあり、仮装で訪れる来場者も多い……と思いきや、何と本校生徒の負けず劣らずの仮装にびっくり！ミニオン、バットマン、名探偵コナン等々……。生徒は再放送で知っているのかもしれない

が、生徒が生まれる前に放映されていた懐かしい「ドクターランプ」のアラレちゃんまで登場です。あの大きな荷物の中にこんな衣装まで入っていたのですね。ユニバーサルシティのホテルでは、10クラスが初めてそろい、集合時間にはロビーが市高生でいっぱいになりました。

◆◆思い思いの目的を持った京阪神班別自主行動

4日目は、朝から班別自主行動。15時に新大阪駅集合という限られた時間ですが、大阪城や通天閣、様々なミュージアム、水族館、美術館、大阪ならではの商店街やテーマパーク等々、さらには京都まで出かけたグループもありました。土地勘のない場所でしたが、集合時間までに全員が揃い、新幹線の遅れもなく、全ての行程を予定どおり無事終えることができました。

— 試合の応援に行ってきました —

■9月27(日):バトン部

第35回バトントワーリング神奈川県大会

本校バトン部は大編成の部に出場。総勢22名で挑む曲は「judgement」。本校は、演技もフォーメーションもダイナミックで、白と黒の大胆な衣装が会場にとっても映えます。演技をしているとき、本校は大柄な部員が多いんだなあと見て見えていたのですが、演技後に会った部員たちは意外にも小柄で、あらためて笑顔あふれる堂々とした伸びやかな演技に感心しました。県大会での成績は2位。県内上位10チームが出場できる関東大会(千葉ポートアリーナで開催)に堂々の出場です。

■10月18(日):女子バスケットボール部

秋季バスケットボール大会(ウインターカップ)

ウインターカップは県内ベスト8のチームだけが出場できる大会。1回戦の対戦相手は、かつて県内不動の1位を誇った強豪の金沢総合高校。相手チームには、神奈川県代表チームのキャプテンを務める3年生もいましたが、本校はほとんどを2年生だけの新チームで闘いました。徐々に点差が開き、51:78で2回戦に勝ち進むことはできませんでしたが、新チームとしては善戦。今回の経験を11月の新人戦に必ずつなげてくれると思います。



写真提供
押山亜葵子さん(3年)

■10月24(土):バトン部

第50回バトントワーリング関東大会 (第43回バトントワーリング全国大会 関東予選)

県大会の時とは若干フォーメーションも変え、より難度の高い演技で挑戦しました。生徒たちは、大きな大会で少々緊張気味だったかもしれませんが、演技後の反省会では悔しさを隠せませんでした。表彰式で全国大会出場が決まったときには、歓声をあげての大喜びでした。

※ 写真撮影が禁止されているのでバトン部の演技を掲載できないのがとても残念です。